

オガグワの森

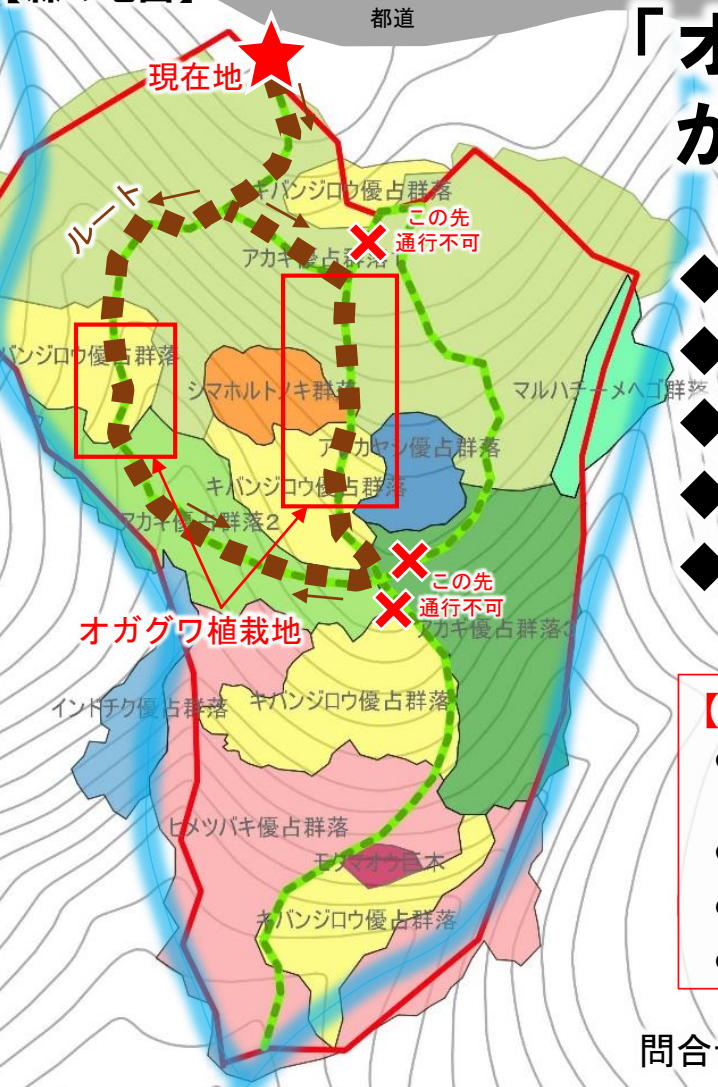
【森の紹介】

- 農業用ダム上流の2つの沢に挟まれた約1haの村有地
- かつては農地利用されていたが、現在はヒメツバキ・モクタチバナなどの在来樹とアカギ・キバンジロウなどの外来樹が混成した二次林と、一部に良好なマルハチ・メヘゴ群落

【取組の紹介】

- 返還50周年を契機として小笠原固有のオガサワラグワ（通称オガグワ）という樹木をシンボルとした自然を身近に感じられる場と機会の創出を図った村民参加の森づくり
- 2016～17年に環境調査を行い、森づくり方法を検討
- 2017年からは生き物観察や地図づくり、道づくり等の村民参加イベントを開催
- 2018年12月にオガグワを約70本植栽。現在育成中。

【森の地図】



「オガグワで人と生き物がつながる森づくり」

を目指し、以下の方針で取組を進めます。

- ◆ オガグワを守り育てる
- ◆ 健全な森へと再生する
- ◆ 森で生き物と触れ合う
- ◆ 森を介して人々が交流する
- ◆ 森から見える暮らしの跡を引き継ぐ

【森の歩き方】

- トイレはありません。お近くの公衆トイレをご利用ください。
- ルート以外に踏み入らないでください。
- 植栽された苗と囲いに触れないでください。
- 携帯電話がつながりにくい場所です。



オガmoi通信

小笠原村環境課 04998-2-3111 小笠原諸島返還50周年

オガグワの森プロジェクト始動！

平成29年8月から、「オガサワラグワ」をシンボルとした森づくりを村民参加・協働で進めるプロジェクトが動き出しました。

【取組の背景】

- 😊 **多くの固有生物とそれらが織りなす特異な生態系**
- 😊 **生物進化は現在も進行中**
- 😊 **それらが評価されて小笠原は世界自然遺産に登録**
- 😬 **外来生物の侵入などの環境変化に耐えられず数を減らす外来生物**
- 😊 **そんな生き物たちが再び安心して暮らせるような対策を進行中**
- 😬 **外来種対策などの取組に対し、物理的・心理的に距離を感じる村民も**
- 😊 **村の基本理念「人と自然の共生する村づくり」のもと、今年は返還50周年**
- 😊 **上記を契機に小笠原の自然を身近に感じられる場と機会を創出**



外来種対策



【予定地のこと】

- 父島字長谷の長谷ダム上流の2つの沢に挟まれた約1 haの村有地
- かつては農地利用
- ヒメツバキ・モクタチバナなどの在来樹とアカギ・キバシロウなどの外来樹が混成した二次林
- 一部に良好なマルハチ・メヘゴ群落

【オガグワって？】

- 正式名称：オガサワラグワ
- 小笠原諸島のみに分布するクワ科の落葉高木
- 高さ15m、幹の直径1m以上の大木になるものも
- かつては湿性高木林の代表的な樹木
- 現在は弟島、父島、母島の限られた地域に生育



オガサワラグワ（母島 石門）

【取組の概要】

- 小笠原固有の樹木「**オガサワラグワ**（通称オガグワ）」をシンボルとした森づくり
- 平成28年度に予定地の植生基礎調査を実施し、今年度は詳細な現況調査を実施中
- 森づくり実施計画も関係者と議論しながら作成予定
- **今年の11月**には、森林総合研究所林木育種センターから提供を受けた父島由来のオガサワラグワの苗を予定地に**植栽予定**
- 植栽以降は、**村民参加による維持管理**を計画
- 現在は、在来樹木と外来樹木が混成する二次林だが、オガサワラグワの維持管理と森づくりを進め、ゆっくりと**在来の森へ転換**

生き物観察&森づくり体験会 開催 (平成29年8月27日)

このプロジェクトの予定地やオガグワのことを、**まずは知ってもらう**ために、生き物観察と森づくり体験会を実施し、参加者17名、スタッフ17名に参加いただきました。

午前中は、途中で突然の大雨に見舞われてしまいましたが、沢の水生生物や林内の植物を観察することで「父島にもこんな森があったんだ!」と感じてもらいました。

午後は、雨により足場が悪くなってしまったので、参加者の中から有志を募り、ルートづくり作業をしていただきました。



役場に集合



参加者のみなさんから出された
つくり方・つかい方・ひろげ方

当日配布した
ハンドブック

農大ボランティアによるゴミの 片付け (平成29年8月28日)



植物を見ながら林内を移動



オガグワ植栽予定地を見学



片付け前 (平成27年3月)



沢沿いの水生生物を観察



ルートづくり作業
(キバングロウを伐採)



片付け中



予定地のついでの解説



ルートづくり作業
(沢のアカギの根を除去)



片付け後

森の地図づくり 開催

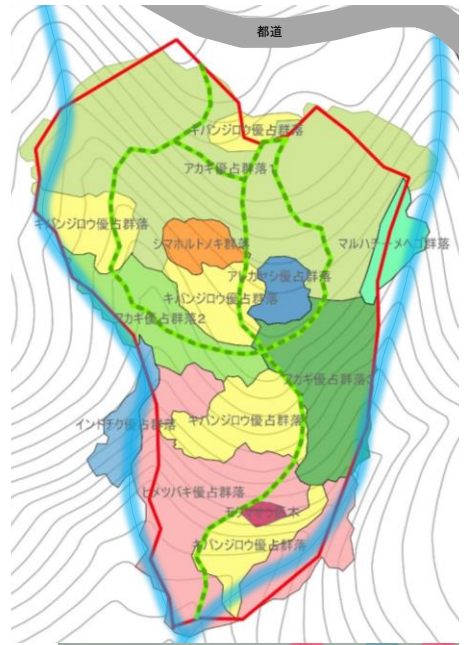
(平成30年1月20日)

イベント第2弾では、予定地やオガグワのことを知ってもらい、**親しんでもらうため**、地図づくりを実施し、参加者13名、小学校教職員13名、スタッフ14名が参加しました。

6班に分かれて森の中を歩き回りながら、沢や林内の生き物を観察しつつ、森の魅力や活用方法に思いを巡らせました。

再度集合してアイデアを集約すると、大きな地図はメモでいっぱいになりました。このアイデアは取りまとめて、今後の森づくりに活かしていきます。

なお、森の名称について投票を行ったところ、晴れて「オガグワの森」が第1位に選ばれ、「仮称」が外れることとなりました。



都レンジャーからオガグワ紹介



沢沿いの水生生物を観察



野生研から苗の順化状況紹介



つるでターザンできる場所



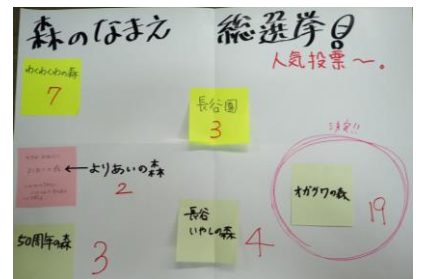
アイデアでいっぱいの地図



1月のおが丸で里帰りした父島産オガグワのクローン苗



見つけたポイントを地図に落とす



森のなまえ総選挙 結果



林内を歩き回る



アイデア発表



一本締めでイベント終了

道づくり体験会 開催

(平成30年2月4日)

イベント第3弾では、予定地の林内ルートを“近自然工法”による道づくりを行う体験会を実施し、参加者42名、スタッフ9名が参加しました。

“近自然工法”とは、なるべく自然に近い状態になるよう、木や石などの自然素材で遊歩道を整備することで、そこに息づいている植物の保護と歩道を通る人のことを考えた手法です。

道づくりの講師は、北海道から来島された岡崎さん（北海道山岳整備）です。冬の間、40日ほど父島・母島に滞在し、千尋岩へ行くルートや三日月山の戦跡ルートなどの遊歩道をガイドさんや行政職員と一緒に補修しています。今回の体験会に向けては、数日前から道づくりの計画と材料集め等の準備をしていただきました。

道づくりを行った場所は、夜明道路から予定地に入る入り口近くとオガグワ植栽箇所に行くためのルートで、難易度別に3班に分かれて作業を行いました。岡崎さんははじめとしたスタッフの入念な準備と参加者の皆さんの頑張りのおかげで、素敵な道が出来上がりました。



材料のアカギは現地調達



初級者班はかすがいで固定から



上級者班はどんどん進みます



予定地で趣旨説明



中級者班は木の位置決めから



一息、休憩中



デモンストレーション



高校生も頑張ってます



ほぼ完成



海岸から運んだ石をバケツリレー



組んだ木枠に石をうまく詰む



御礼にアレカヤシの冠を贈呈



オガmoi通信

No. 2
50th ANNIVERSARY 1968-2018

小笠原村環境課 04998-2-3111 小笠原諸島返還50周年

春の地ならし体験会

(平成30年5月6日)

今秋のオガサワラグワの植栽に向けて、予定地の環境づくりと皆さんの雰囲気づくりを図った「春の地ならし体験」を実施し、参加者25名、スタッフ6名に参加いただきました。

まずはスタッフである野生研の方から、オガグワの紹介と現在育成中のクローン苗の馴化状況を説明してもらいました。

それから2班に分かれ、林内の片付け作業を行いました。1班は平場で株立ち状に大きく生長したアレカヤシを間引きしました。伐採した幹は長くて重いため、運びやすい長さに切った後、バケツリレーのように斜面上の平地まで運びました。もう1班は、沢沿いのタケやアカギ、キバンジロウの伐採と整理を行いました。アカギやキバンジロウの実生は引き抜き、倒れかけたり枯れたタケや少し大きな木はノコギリで伐採し、散らかっていたり伐採して出た材は斜面に沿って整理して積んでいきました。

作業を進めていくうちに、ノコギリで木を伐ることに皆さん夢中になって取り組んでいました。長い材や重いものに取り掛かる際には、抜群のチームワークを発揮し、予定より広い範囲の片付けを終えることができました。また、作業の合間には休憩もはさみながら、楽しい雰囲気イベントを進めることができました。



オガグワについて説明



片付け初め（平場）



片付け初め（沢沿い）



大きな幹はバケツリレー



作業の合間の一服



片付け中（平場）



片付け中（沢沿い）



こんなにたくさんの木を
みんなで運搬



大きなアカギもみんなで伐採



最後にオガグワを観察



片付け後（平場）



片付け後（沢沿い）



2月に作った階段で使った
アカギの材からの芽吹き
外来樹をうまく活かして
道づくりを進行中



オガmoi通信

No. 3
50th
ANNIVERSARY
1968-2018

小笠原村環境課 04998-2-3111 小笠原諸島返還50周年

夏の地ならし体験会

(平成30年9月8日)

春に引き続き、植樹のための準備イベントとして、「夏の地ならし体験」を実施し、参加者38名（子ども8名含む）、スタッフ10名に参加いただきました。

今回は、植栽予定地につながる階段をつくりました。2月に行った近自然工法による道づくりでは、講師である岡崎さん指導の下行いましたが、今回はその時のノウハウを活かし、島内スタッフで準備から行いました。8月下旬からスタッフで集まり、材料となるアカギの伐採や石集めなどを2日間行い、9月に入ってから、昨年も活躍した東京農業大学のボランティア部の皆さんにも石の運搬などを行ってもらいました。

体験会当日は、初級、中級、上級の班に分かれ、どうやったら歩きやすいかをイメージしながら、アカギ材で階段の枠を作ったり、そこに石をつめたりしました。今回のイベントでは子どもたちも多く、運ぶ石を箱に詰めたり、ウッドチップをまいたり大活躍してくれました。



アカギの伐採（準備作業）



恒例の石をバケツリレー



上級班は木枠の設置から



石の箱詰めは子どもたちが活躍



石詰めも慣れてきてます



最後は記念撮影

農大ボランティアによる階段づくり準備

(平成30年9月3日)



太くて長い材をみんなで運搬



海岸から運んできた石運び



森の入り口の階段づくり



オガmoi通信

No. 4
50th
ANNIVERSARY
1968-2018

小笠原村環境課 04998-2-3111 小笠原諸島返還50周年

植樹会に向けた準備

(平成30年11月)

12月の植樹会に向けて、関係者で準備を行いました。



囲いの支柱用の
ササの伐り出し
(大神山公園)
約400本!!



水を運んでペット
ボトル150本に
詰め替え



作業道具を
各方面から
調達



アカギの大木伐採は
プロによる作業



準備作業を
ハトが見守る

9月につくった
階段の仕上げ



トリカルネット
を切り分けて
囲いを試作



植樹会①

(平成30年12月9日)

昨年8月の生き物観察から始まった森づくりイベントの集大成として、「植樹会」を実施し、参加者71名（うち子ども15名含む）、スタッフ23名に参加いただきました。

ワゴンやバスに乗り込んで、役場から長谷に移動し、野生研、林木育種センター、都レンジャーからのレクチャーを受けた後、2ヶ所の植栽地に分かれて植えました。



総勢100名近くが集合して開会



オガグワを楽しくわかりやすく紹介



オガグワ野生復帰の取組紹介



苗の育て方を寸劇を交えて紹介



村長による記念植樹

植樹会②

(平成30年12月9日)



植樹前に記念撮影



大人たちは急斜面に植樹



親子で仲良く植樹



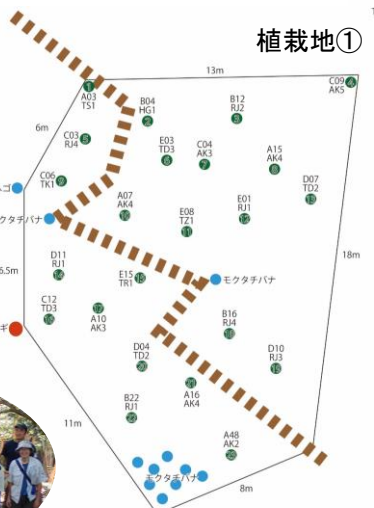
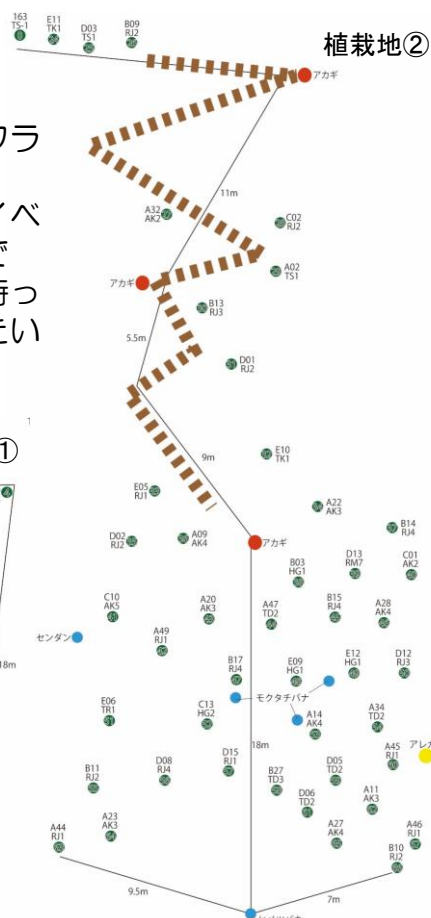
苗の囲いを設置



植樹後、設置予定の
看板の裏に子どもたちに
名前を書いてもらいました。
大人になった時、どんな森
に育っているかな。

土が硬かったり、傾斜が急
だったり、皆さん悪戦苦闘し
ながらも楽しく作業し、オガサワ
ラグワ68本の植樹を行いました。

今後は、苗の保育とともに、イベ
ントや学校授業等、様々な場面で
活用しながら、皆さんに愛着を持
ってもらえるような森にしてい
きたいと思います。



植栽配置図 (平成30年12月)



スタッフで残業して
残りの苗植栽と囲い設置